

2018 年 12 月 27 日

昭和電線ホールディングス株式会社

昭和電線グループの AI・IoT 技術導入の取り組みについて

昭和電線ホールディングス株式会社（本社：神奈川県川崎市、取締役社長：長谷川隆代）は、かねてより昭和電線グループにおけるコアコンピタンスの創造への支援として経営資源の有効配置を行い、創造活動を加速させる取り組み（コアコンピタンス創造ワーキング）を展開してきました。このコアコンピタンス創造ワーキングのひとつとして、業務の効率化や省力化、生産性向上、働き方改革推進に向けた IoT 技術の導入、AI の活用を積極的に進めております。

直轄事業会社である昭和電線ケーブルシステム株式会社通信システムユニットでは製造ラインにおける IoT 技術導入に取り組み、製造工程内の様々なデータを収集し生産性を向上させています。その取り組みは、2018 年 12 月 13 日（木）にグループ内ワークショップを開催し、導入した IoT 技術ならびに活用方法を発表しました。

【導入した IoT 技術ならびに活用の一例】

①RFID(radio frequency identifier)技術を用いた
在庫管理

・ RFID は仕掛品および製品に取り付けた IC タグに付加されたデータを無線通信で読み取れる技術です。

・ RFID ハンドスキャナーを仕掛品および製品にかざすことで複数の IC タグのデータを瞬時に一括で読み取り、棚卸時間の約 90%削減に成功しました。

・ RFID ゲートを仕掛品および製品が通過することで IC タグのデータを無線で読み取って入出庫管理を行い、リアルタイムで在庫状況を把握できるようにしました。

②外付けセンサーや PLC を用いて製造設備の稼働データをリアルタイムで収集し、稼働状況の把握や実績データの分析に活用。

③スマートグラス（眼鏡型ウェアラブル端末）を用いることで、従来は 2 名体制で行っていた遠隔での設備調整作業を、一人でも他方の設備状況が把握できるようになり、1 名体制を実現しました。



<ワークショップの様子>

昭和電線グループでは、今後も AI・IoT 技術導入を推進してまいります。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

昭和電線ホールディングス株式会社 事業戦略本部 経営企画部 TEL：044-223-0520